



駆け抜ける

明日の3学年成績会議に向けて学年で会議を開いたが、とりあえず35Rは全員が卒業できそうな雰囲気である。あとはひたすら本番めがけて駆け抜けるだけとなった。

ところで、この「駆け抜ける」のイメージをしっかりとってもらいたい。ウサイン・ボルトのように、ゴール直前になったら「流す」のではなく、受験生の場合は、どこがゴールだったか分からないうちに、ゴールを駆け抜けていた…といった感じがよい。つまり、とにかく「ひた走る」ということである。

*

さて、先日「大学出願申請書・結果報告書」を提出してもらったので、その内容を分析してみたが、ひとりあたり平均6.5校受験することが分かった。一番多い人は延べ●の学部を受験する。もちろん、同じ大学・学部には「一般方式」「センター方式」があったり、中には「全学部入試」があったり、「3教科入試」「5教科入試」といったものまであったりするから、●回すべて受験するというわけではないが、とにかく絶対「蠟人形」にはなりたくないという気概を感じさせる数字である。この気持ちを大切に、いい成果を挙げてほしい。

一方、1校のみという人も●人いる。「ここしか受けない」と決めているわけで、潔いことこの上ない。しかも、その大学は前期しかないから、本当に一度の勝負である。その気概が合格へと結びつく……場合もあるかも知れないから（笑）、ここは「背水の陣」で本番に臨んでほしい。（ついでに、国立の前期と後期だけという人も●人いる。）

*

この時期は、センター試験対策を中心に、二次対策も少しずつ進めていることだろう。その際、常に「時間」を意識しながら準備をすすめるように注意してほしい。

なんといっても、目の前のセンター試験は時間との闘いである。時間さえあれば満点とれる可能性があっても、決められた時間内で答案を仕上げなければならないわけだから、時間意識を高めることが大切。そのためには、問題を解く順番をどうするかといったタクティクスも必要になってくるから、今のうちにいろいろチャレンジして、最も時短できるやり方を見つけておこう。

記述式の二次試験や小論文も、どれくらい仕上げるのに時間がかかるのかを明確にして、「次に過去問をやる時は、今回よりも3分間短縮することを目指そう」とか、具体的な数値目標を決めて取り組むこと。そうすれば、集中力も高まるし、やりがいもあるというものだ。

また、この時期に集中的に実力を伸ばすべき「理社」については、すき間時間を如何にうまく活用するかということも重要な課題である。新しい分野の演習や、不得意分野の演習などの際には、ある程度時間をとって落ちついて取り組むことが必要だろうが、既習範囲の復習などに関しては、一問一答方式などを活用してすき間時間を生かす方法を確認し、1分でも時間が見つけれたら、繰り返し繰り返し演習して知識を確実にしよう。

というわけで、とにかく脇目も振らず駆け抜けること。気づいたら、ゴールしていた（合格していた!）というのがベストである。